

## 「人権教育総合推進地域事業」事業実施報告書

推進地域市区町村教育委員会名 : 南部町教育委員会  
推進地域名 : 南部町立南部中学校区・法勝寺中学校区

### 1. 調査研究のテーマ

#### (1) 調査研究のテーマ

住民一人一人が主体者として進められる人権尊重のまちづくりをめざして  
～保幼・小・中15年間を見通した人権教育プログラムを支える地域の基盤づくり～

#### (2) 調査研究のテーマを設定した背景

本町は平成16年に旧会見町と旧西伯町の合併により誕生した人口11,200人あまりの町である。合併以来「人権が大黒柱のまちづくり」を町の重要な施策に位置付け、南部町人権会議を立ち上げて、部落差別をはじめあらゆる差別をなくす取組を展開してきた。町は町行政の全般にわたり町民の人権意識の高揚を図り、差別を許さない社会意識の形成や、人権擁護にかかわる社会的環境を醸成し、差別のない明るく住みよい南部町をめざしてきた。

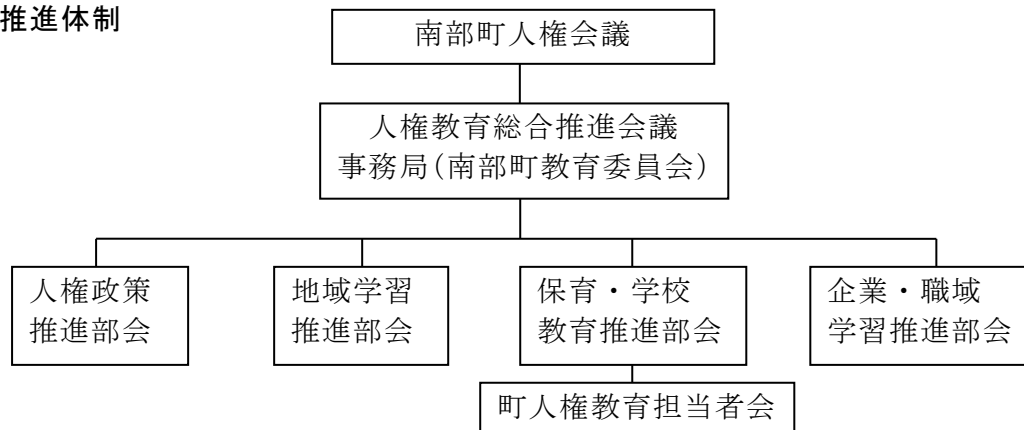
しかし、本町は旧町時代の人権教育における取組の差から、旧町ごとに地域住民の人権に対する関心に温度差があり、「人権が大黒柱のまちづくり」を進めるためにも、地域住民全体の人権意識の高揚を図る必要があった。

一方、学校教育においては、「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」において、人権教育の全体計画・年間指導計画の策定に当たっては、「全体計画については、例えば小学校では、体験・交流活動を通して、児童が自分で『ふれる』、『気付く』こと、中学校では他者に『気付く』ことを確かな認識に『深める』こと、(中略)発達段階に相応した目標を設定することが望ましい。また、年間指導計画の作成に当たっては、身近な人権問題を扱った学習や、例えば社会奉仕体験活動、自然体験活動などの体験活動、様々な人達との交流活動等を取り入れ、その計画を示すことが考えられる。」と述べているように、これまでの取組を踏まえ、地域課題や現代的課題にも目を向け、15年間を見通した一貫性のある効果的な人権教育プログラムの作成が課題となっていた。

こうした状況を踏まえ、平成28年度南部中学校区を対象に地域課題及び南部町の子どもたちに人権教育を通して育てたい力の検証を進めてきた。その中で、平成24年度から本町で取り組んでいる「おせ(大人)の背中を魅せよう町民運動」とリンクさせ、学校も住民も共有できるプログラムを作成することで、よりテーマに迫ることができるのではないかという方向性が見えてきた。そこで、平成29年度は、研究の対象を町内2中学校区へ広げ、平成28年度に原案を作成した15年プログラムで育てたい力を各園・学校の保育計画・指導計画に反映させた上で、保育実践及び授業研究を進めた。その成果と課題を再検証することで、平成30年度には住民一人ひとりが意識をし、関わることのできる保幼・小・中15年間を見通した人権教育プログラムの完成につなげていきたいと考えた。

## 2. 調査研究の体制等

### (1) 推進体制



< 関係機関 > ○鳥取県教育委員会

### (2) 人権教育総合推進会議の構成

所属・役職、資格、経験等	氏名
南部町立ひまわり保育園 園長	岡田 祐美
南部町立さくら保育園 園長	板井 弘子
南部町立すみれこども園 園長	佐々木 美和
南部町立つくし保育園 園長	檜 めぐみ
南部町立会見小学校 校長	伊田 典穂
南部町立会見第二小学校 校長	渡邊 不二子
南部町立西伯小学校 校長	野口 高幸
南部町立南部中学校 校長	伊藤 静也
南部町立法勝寺中学校 校長	田丸 睦悌
南部町立ひまわり保育園 人権担当保育士	岩田 由美
南部町立さくら保育園 人権教育担当保育士	猪狩 春佳
南部町立すみれこども園 人権担当保育士	松原 伸
南部町立つくし保育園 人権教育担当保育士	吉塚 亮平
南部町立会見小学校 人権教育主任	松本 康裕
南部町立会見第二小学校 人権教育主任	樋口 貴
南部町立西伯小学校 人権教育主任	住田 慎介
南部町立南部中学校 人権教育主任	松本 久美
南部町立法勝寺中学校 人権教育主任	森本 裕成
南部町立宮前隣保館 館長	新井 将司
南部町立西伯文化会館 館長	百千田 賢治
南部町人権会議 保育・学校教育推進部会 部会長 教育長	永江 多輝夫
南部町人権会議 事務局長 教育委員会事務局教育次長	板持 照明
南部町教育委員会事務局 総務・学校教育課 課長	見世 直樹
南部町教育委員会事務局 人権・社会教育課 課長補佐	角田 有希子
南部町教育委員会事務局 人権・社会教育課 主幹	大下 真史
南部町教育委員会事務局 人権・社会教育課 人権教育啓発専門員	新井 則子

### (3) 推進協力校の概要

学校名	学級数	児童生徒数 (平成30年1月17日現在)
南部町立ひまわり保育園	6クラス	全園児数：66人
南部町立さくら保育園	6クラス	全園児数：71人
南部町立すみれこども園	6クラス	全園児数：118人
南部町立つくし保育園	6クラス	全園児数：106人
南部町立会見小学校	9学級(うち特別支援学級2学級)	全児童数：185人
南部町立会見第二小学校	4学級	全児童数：17人
南部町立西伯小学校	15学級(うち特別支援学級2学級)	全児童数：365人
南部町立南部中学校	6学級(うち特別支援学級1学級)	全生徒数：98人
南部町立法勝寺中学校	8学級(うち特別支援学級1学級)	全生徒数：208人

## 3. 調査研究の内容等

### (1) 調査研究の内容・実施日程

#### i) 各部会の取組

##### ① 保育・学校教育推進部会

毎月開催している人権教育担当者会をプログラム検討委員会と位置付けて、保幼・小・中15年間を見通した「人権教育プログラム(共通教材)」の作成に向けた取組を中心に行った。昨年度検討し作成した「ミカエル・プログラム」の育てたい力を意識した保育実践、授業実践が展開できるよう、園・学校共に年度当初に全体計画の見直しを行い、育てたい力の文言を全体計画に反映させた。町全体で研究を進めるため、町内の全保育士、教職員に向けて研究推進のポイントをまとめた資料を配布し、年度当初の職員会等で説明を行った。保育・授業を通して育てたい力の育成を図ることができるかどうかの検証を行うため、3回の保育・授業研究会を実施した。

##### ② 人権政策推進部会

保幼・小・中15年間を見通した「人権教育プログラム」を支える地域の基盤づくりという視点に立ち、人権政策の立案並びに要請活動及び施策等の推進を図った。昨年度策定した「差別事象対応マニュアル」の活用に向けて、行政職員対象の全体研修会を開催し、現存する差別の実態を学んだ。

##### ③ 地域学習推進部会

保幼・小・中15年間を見通した「人権教育プログラム」を支える地域の基盤づくりという視点に立ち、地域における学習活動及び各種住民啓発事業の推進を図る取組を行った。具体的には地域学習推進員を中心に地域振興区別での人権懇談会や研修会を実施するとともに、地域住民を対象とした人権学習会やいきいきサロン(高齢者学級)などを開催した。

##### ④ 企業・職域学習推進部会

保幼・小・中15年間を見通した「人権教育プログラム」を支える地域の基盤づくりという視点に立ち、町内の企業研修の促進と町の人権研修会への参加促進を図った。また、直接事務局職員が企業の職員研修会に出向き、町の取組等の紹介も行った。

#### ii) 先進地視察

全国規模の研修会や研究大会に教職員、行政職員等を中心に派遣をし、全国の取組を確認するだけでなく、先進的な取組事例を持ち帰り研究推進の参考とした。

また、小・中9年間を見通した義務教育学校の取組を進めておられる東京都品川区の品川学園への視察を行い、学園の人権学習の取組を学ぶだけでなく、部落解放同盟東京都連合会品川支部の方との懇談を行い、地域との連携についても学んだ。

#### iii) 部会以外の取組

- ・年6回の住民対象人権講座「ミカエル・セミナー」の開催
- ・人権啓発のつどい(コンサート)の開催
- ・広報なんぶ、CATVによる広報活動
- ・人権スタンプラリー(年間5回以上の参加で表彰)の実施
- ・南部町人権・同和教育研究大会の開催

時 期	内 容	備 考
4月19日	第1回人権教育総合推進会議（事業計画の確認）	参加者 13人
4月25日	第1回町人権教育担当者会（保育・学校教育）	参加者 19人
4月27日	南部町人権会議総会	参加者 68人
4月	地域学習（1地区のべ1回開催）	参加者 16人
5月9日	人権教育総合推進地域事業連絡協議会（県教委4人）	参加者 26人
5月9日	第2回町人権教育担当者会（保育・学校教育）	参加者 17人
5月10日	人権啓発推進委員の会（人権政策）	参加者 12人
5月25日	第1回ミカエル・セミナー（参加型学習）	参加者 64人
5月31日	部落解放・人権政策確立要求学習会（人権政策）	参加者 5人
5月	地域学習（6地区のべ7回開催）	参加者 84人
6月13日	第2回人権教育総合推進会議（事業の進捗確認）	参加者 13人
6月22・23日	第42回部落解放・人権西日本夏期講座（宮崎市）	参加者 2人
6月23日	南部中授業研究会・第3回町人権教育担当者会（保育・学校教育）	参加者 12人
6月23日	新垣勉人権コンサート（県教委3人）	参加者 488人
6月28日	地域学習推進部会・班長会、全体会（地域学習）	参加者 19人
6月	地域学習（2地区のべ2回開催）	参加者 28人
7月4日	人権会議部会長会議	参加者 9人
7月11日	人権保育基礎研修会（保育・学校教育）	参加者 2人
7月13日	西部地区人権研修会（人権政策）	参加者 3人
7月18日	第2回ミカエル・セミナー（同和問題・中倉茂樹さん）	参加者 103人
7月19日	人権政策推進部会（人権政策）	参加者 13人
7月20日	法勝寺地区人権研修	参加者 18人
7月27日	第4回町人権教育担当者会（保育・学校教育）	参加者 13人
7月31日	保育・学校教育推進部会（保育・学校教育）	参加者 12人
7月	地域学習（4地区のべ4回開催）	参加者 36人
8月3日	第42回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会（倉吉市）	参加者 38人
8月22日	大国地区人権研修	参加者 28人
8月22日	第3回ミカエル・セミナー（性的マイノリティ・土肥いつきさん）	参加者 103人
8月22日	行政職員人権研修1日目	参加者 67人
8月23日	行政職員人権研修2日目	参加者 64人
8月24日	第5回町人権教育担当者会（保育・学校教育）	参加者 15人
8月28日	人権政策推進部会（人権政策）	参加者 13人
8月	地域学習（2地区のべ1回開催）	参加者 21人
9月11日	会見二小6年生人権学習（町の取組を学ぶ）	参加者 6人
9月20日	第3回人権教育総合推進会議	参加者 14人
9月22日	会見二小授業研究会・第6回町人権教育担当者会（保育・学校教育）（県教委1人）	参加者 17人
9月	地域学習（4地区のべ4回開催）	参加者 33人
10月2日	南部町人権・同和教育研究集会実行委員会	参加者 13人
10月19日	第7回町人権教育担当者会（保育・学校教育）（県教委1人）	参加者 14人
10月21～22日	第36回熱と光の解放文化祭（地域学習、保育・学校教育）（県教委1人）	参加者 360人
10月	地域学習（2地区のべ2回開催）	参加者 21人
11月5日	人権・同和保育研究大会（保育・学校教育）	参加者 3人
11月6～8日	部落解放研究第51回全国集会（大阪市）	参加者 4人
11月8日	法勝寺中授業研究会・第8回町人権教育担当者会（保育・学校教育）（県教委1人）	参加者 13人
11月29日	西伯小6年生人権学習（町の取組を学ぶ）	参加者 92人
11月29日	第4回ミカエル・セミナー（病気にかかわる人の人権：鳥取ダルク）	参加者 85人
11月	地域学習（3地区のべ4回開催）	参加者 184人
12月2～3日	第69回全国人権・同和教育研究集会（松江市・出雲市）	参加者 12名
12月7日	人権週間啓発活動（人権擁護委員）	参加者 7人
12月10日	西伯文化会館解放まつり	参加者 312人
12月15日	会見小6年生人権学習（町の取組を学ぶ）	参加者 38人
12月19日	第9回町人権教育担当者会（保育・学校教育）	荒天のため中止
12月21日	南部町人権・同和教育研究集会実行委員会	参加者 13人
12月	地域学習（3地区のべ3回開催）	参加者 40人
1月11～12日	第32回人権啓発研究集会（神戸市）	参加者 5人
1月12～14日	第40回全国人権保育研究集会（鹿児島県）	参加者 2人
1月15日	第5回ミカエル・セミナー（子どもの人権：米子児童相談所）	参加者 90人
1月16日	保育・学校教育推進部会（保育・学校教育）	参加者 7人
1月30日	第10回町人権教育担当者会（保育・学校教育）	参加者 13人

1月	地域学習（1地区のべ1回開催）	参加者 11人
2月 3日	第6回南部町人権・同和教育研究集会（県教委1人）	参加者 165人
2月 13日	人権教育研究推進事業連絡会	参加者 4人
2月 16日	八金人権映画会	参加者 16人
2月 22日	第11回町人権教育担当者会（保育・学校教育）	参加者 13人
2月	地域学習（3地区のべ3回開催）	参加者 32人
3月 2日	第6回ミカエル・セミナー（高齢者の人権：徘徊DVD上映）	開催予定
3月 20日	第4回人権教育総合推進会議	開催予定

## （2）調査研究の成果と課題

### 【成果】

- 昨年度検討した南部町の子どもたちに育てたい力を、保育実践、授業実践を通して再検討することができた。

町内の全保育士、教職員でプログラムを作成しているという気運が高まっていないという反省点から、「ミカエル・プログラム」で育てたい力を園・学校の全体計画に反映させ、さらに今年度の研究推進の方向性をまとめた資料を配布し、今年度の実践をスタートした。人権教育担当者会を中心に、以下3回の授業研究会及び事前指導案検討会を実施し、授業のねらいと育てたい力の整合性を確認することができた。

- ・南部中学校授業研究会（6月23日） ・会見第二小学校授業研究会（9月22日）
- ・法勝寺中学校授業研究会（11月8日）

- 先進地視察の取組から、15年間を見通したプログラムのポイントを見出すことができた。

東京都品川区立品川学園の9年間を通じた義務教育学校の取組から、まずは学校教育における教職員の人権教育に向かう意識の統一の徹底を図るための研修の充実が必要であることを学んだ。また、全体の見通しを意識できるプログラムにしていくために、各学年での行動目標を端的な言葉で表現することが有効であることを学んだ。さらに、部落解放同盟東京都連合会品川支部の方との懇談では、地域の歴史、差別の実態を、子どもたちに関わる大人が正しく理解し、正しく伝えていくことの重要性を確認することができた。

- 一人でも多くの町民の方に、一つでも多くの新たな気づきを届けることができた。

年6回の全町民対象の人権セミナー「ミカエル・セミナー」の計画を年度当初には作成し、職員研修やPTA研修として活用していただけるよう広報を行った。平均して1回あたり約90名の参加があり、とくに保護者、教職員の参加が昨年度よりも増加傾向にあった。

また、人権コンサートには、盲目のテノール歌手「新垣勉さん」にお越しいただくことができた。音楽を通して人権を学んでいただく機会を設けることができ、多くの町民の方の参加と、人権及び平和に対する多くの気づきがあった。

### 南部町人権啓発のつどい「新垣勉 人権コンサート」（アンケート集計）

[日時] 平成29年6月23日（金） 昼の部 14:30~15:30 夜の部 19:30~20:30

[会場] 昼の部：西伯小学校体育館 夜の部：富有まんてんホール

[参加者] 小学生（4~6年）170名 / 中学生（3年）63名

公民館学級 69人 一般 186人

合計 488人

\*\*\*\*\*感想・アンケート用紙の集計\*\*\*\*\*

[アンケート回収] 169名

[記入者の年代と性別]

年齢	20歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無記入	計
男性	1			3	5	12	7	5		33
女性	1		5	18	19	43	38	10	1	135
無記入						1				1

[今回のコンサートの内容は・・・]

よかった (165)      まあまあ (1)      よくなかった (0)      無記入 (3)

[今回参加して、人権への気づきが・・・]

あった (166)      なかった (1)      わからない (2)      無記入 (0)

[今後もこのようなコンサートの開催を・・・]

のぞむ (167)      のぞまない (0)      どちらでもよい (1)      無記入 (1)

【課題】

●おせ（大人）の背中具体化

大人として正しい行動をとる姿を見せていくことが、本研究で取り組んでいるプログラムにおいても基軸となるため、義務教育終了後の姿として「おせ（大人）の背中を魅せよう」というキーワードをプログラムにも位置付けている。そのキーワードを具体的な行動目標として示すことが、行動化を伴うプログラムの活用につながると思う。社会教育委員の会、青少年育成町民会議とも連携し、人権教育の視点から南部町の大人としての行動目標を具体化していきたい。

●ソーシャルスキルトレーニングも含めた、共通単元、共通教材の明確化

今年度、授業研究会を進める中で、子どもたちの実態に即したソーシャルスキルのトレーニングもプログラムに組み込んでいく必要性を感じた。また、育てたい力を育む授業に関して、町内の園・学校において各年代、学年において、これだけは必ず学習する教材の選定と、指導者によっておられることのない明確なねらいと展開を示した町内共通の指導案の作成が目指す姿の実現には必要であるという見解に至った。現在の年間指導計画及び県教育委員会が公開している資料等を活用し、共通単元、共通教材の明確化、具体化を進めていきたい。

●プログラムに直接関わる保育士・教職員の学びの場づくり

プログラムの内容の充実はもちろんであるが、やはりそれを活用し、子どもたちに伝えるのは保育士及び教職員の責務である。その遂行には、子どもたちの前に立つ前段での、最低限の基礎知識の習得及び心構えの徹底が必要不可欠ではあるが、現状では各園・学校に任せている状態である。プログラムの有効活用だけでなく、地域の基盤づくりという面からも年度当初における町としての保育士・教職員のための学びの場づくりを仕掛けていきたい。

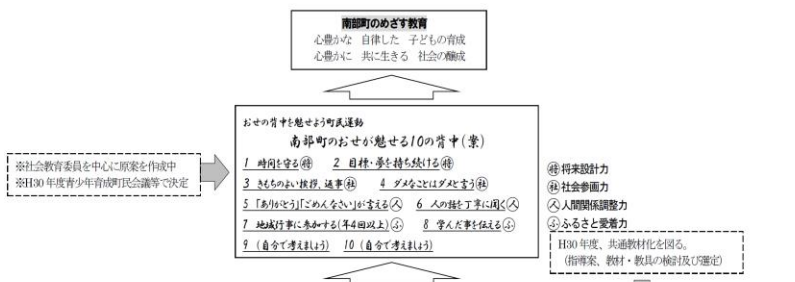
●地域での学びとプログラムとの連携・融合

園・学校での学びも地域での学びも充実してきてはいるものの、まだその融合には至っていない。まずは互いの学びを知ることから始めていく必要があるが、発信だけにこだわらず、主体的な受信という視点からも学び合う活動を推進していきたい。

●全町民で共有するための効果的な周知・啓発

次年度は研究をスタートさせて3年目になる。プログラムの完成はもちろんであるが、南部町全体で共有するためには、住民一人ひとりが意識することのできる効果的な周知、啓発が必要である。プログラムを活用し、行動化につながるためのリーフレット及びポスターの作成、またその配布方法も含め研究を進めていきたい。

「ミカエル・プログラム」  
(保幼・小・中15年間を見通した人権教育プログラム)



人権教育で育てる力				学生行動目標	ソーシャルスキルトレーニング	共通必修事項(年度)	地域との関わり(保護者)	行動化	知識	人権感覚
将来設計力(自己実現)	社会参加力(他と一歩先の関)	人間関係調整力(共に生きる)	ふるさと愛着力							
(キーワード) 志・自立心・我慢 正義感・克己心 なりたい人のイメージ	あいさつ ルール 人を幸せにする力	伝える・関わる 共感・言える勇気 聞く・よいこと見つけ	(キーワード) 地域行事 参加 体験	残す (渡す)  伝える  作る  やる (まねる)  知る (見る)  読む  物まです  見せる  習う						
自分のことを友だちに語る事ができる										
③ ありのままの自分を 受け入れ、自信となる大 人像に近づき、自分の 将来を思いながるこ とができる。【オ】  ④ 間違えに気づき、自ら の行動を正したり、友 だちや家族に指摘され ることができる。 【シ・エ・セ】	④ 差別や不合理的な解決 に向けて、自ら行動し ようとする。【ア】  ⑤ 自分が正しい行動を とることで、人を幸せ にできることを知って いる。【ア・イ・ウ】	⑥ お互いを大切にした 関わり方、話し方を知 ることができる。【カ・ク】  ⑦ 人には様々な考え方、 感じ方があることを認 め合い尊重しようとし ます。【キ】	⑧ 自分のことと地域の 未来を語ることができる。  ⑨ ボランティア活動に 参加する。							
③ 自分の個性に気づき、 夢を持つことができる。 【オ】  ④ 正しいことをみんな で確認し、やり抜こう とする。【シ・エ・セ】	④ すべての人が基本的 な人権を持っているこ と、身の回りに潜む 人権問題に気づくこ とができる。【ア】  ⑤ 問題解決に向けて協 力して行動しよう とする。【ア・イ・ウ】	⑥ 相手の立場を理解し た関わり方、話し方 を知る。【カ・ク】  ⑦ 自分と相手のちが いを認め、受け入れる ことができる。【キ】	⑧ 地域の歴史や特色を 知る。  ⑨ 課題意識をもって地 域と関わることので きる。							
③ 目上の人を敬う言動 とおし、礼儀作法を 身に付ける。【オ・キ】  ④ 善悪の判断ができる。 【イ・セ】	④ 困った時に相談する 人や場所を知ってい る。【イ】  ⑤ 困ったこと、嫌なこと に出会ったとき、自分 の思いを伝えること ができる。【ア・イ・ウ】	⑥ 自分の思いを伝え、相 手の思いをましく聞 き取ることができる。 【カ・ク】  ⑦ 人には様々な考え方 や感じ方があること を知る。【キ】	⑧ 地域の人と関わりを 持って地域を知ろう とする。  ⑨ 地域の人・もの・こと に自分から関わろう とする。							
③ 友だち、家族を大切に し、感謝の気持ちを持 つことができる。【オ・ キ】  ④ 学校、学級のみまりと その意味がわかり、守 ることができる。【イ・ セ】	④ 身のまわりのきまり と理由を知っている。 【イ】  ⑤ 困ったこと、嫌なこと に気づく。【ア・イ・ウ】	⑥ 自分からあいさつし たり、話し掛けたりす ることができる。【カ】  ⑦ 自分と自分を大切に と感じられる。【オ】	⑧ 地域の行事に喜んで 参加する。  ⑨ 地域の人と楽しくふ れあうことができる。							
お互いを認め合う仲間 ・共通の目標に向かって 活動する中で、多様な 存在を認め合う。 ・相手の気持ちを大切に し、自分の気持ちを伝 えることができる。	相手の思いへの気づき ・様々な人と関わり遊 びながら、ルールを守り つながり深める。	仲間意識の芽生え ・簡単なルールを守り ながら友だちや異年齢 児と関わることを楽し む。	地域との関わり ・地域の人・もの・こと に関わり。 ・地域の自然物や事柄を 遊びに取り入れる。	絵本	絵本	絵本				
安心・安定した心地よい生活 ・安心して過ごし、愛さ れている実感を持つ。	友達と遊ぶ楽しさ ・友だちを意識し、簡単 な言葉のやりとりを 通してみんなであそ ぶ楽しさを感じること ができる。	友達の存在への気づき ・友だちの存在に気づ き、自分の思いを言葉 や動作で伝えること ができる。	地域とのふれあい ・地域の人や自然とのふ れあいを楽しむ。 ・身近な大人と一緒に地 域の人や自然とふれ あう。	絵本	絵本	絵本				

【ア～セ】の表記は国が示している人権教育推進のために身につけてほしい資質・能力の項目を示しています。